

講義名	キャリア実習		
科目区分	キャリア科目		
担当教員	小幡 祐可子／前川 明／中山 一郎		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>受講生は、企業へインターンシップに行くことによって、職業観を醸成し、社会人として活躍するための準備を行う。具体的には、事前に自己分析、業界・企業・職種研究、マナー研修を行う。インターンシップ先の選定は自らが先行し、計画的にインターンシップへの参加を進めていく。インターンシップ先では仕事とは何か、企業実習に参加することで学ぶ。そして、実習後は報告書を作成し、将来の就職活動につなげていく。</p>			
到達目標			
<p>インターンシップ先の選定、企業実習を通じて、実社会において必要なビジネス・スキルの基本を身につける。また、職業への理解を深め、職業選択能力を高めるとともに、将来のキャリアビジョンを明確にする。</p>			
提出課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ計画書（3日間以上のインターンシップ参加予定計画書） ・企業実習日誌 ・実習報告書 			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>毎回の授業で提出するミニレポートについてはクリッカー（Respon）もしくはリアクションペーパーを使用し、次の授業の冒頭で、前回授業のミニレポートの内容（感想、質問）を紹介し、必要に応じて、解説、回答を行う。</p>			

評価の基準			
事前講義ミニレポート	40%		
提出課題の内容	60%		
3日間以上のインターンシップへの参加が出来ない者、事前、事後講義の受講姿勢の良くない者、事前、事後講義の欠席が多い者は単位を認めない。また、事後講義（インターンシップ報告会）は必ず出席すること。			
履修にあたっての注意・助言他			
<p>実習は、企業との協働による学修である。そのために、企業の立場に立って行動することが前提となる。日頃から対人関係やビジネスマナーを身につけるように心がけること。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業の受講時には、企業での実習時と同じように、決められたルールを厳守すること（例）遅刻、私語、居眠り、途中退席等は厳禁 ②企業実習に行く前に、必ず事前講義、マナー研修を受けること ③レポート・報告書等は、質の向上に努め、決められた期限に提出し、必ず、インターンシップ報告会に出席すること。 <p>また、インターンシップ先は自ら選定するため、夏休みに3日間以上インターンシップに参加できるように、時間に余裕を持って計画的に進めること。</p>			

教科書
・教科書はなし。

プリント資料及び参考文献
<p>授業において随時、プリント資料を配布します。 参考文献も随時、説明します。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクッション（中山、小幡、前川） 2 就職活動を見据えたインターンシップについて（中山、小幡、前川） 3 マナー研修①（小幡） 4 企業研究の考え方（中山） 5 自己PR、カクチカを考える（中山） 6 インターンシップ先の選び方（前川） 7 インターンシップ計画作成（前川） 8～9 マナー研修②（小幡） 10～13 企業での実習 14～15 インターンシップ報告会（中山、小幡、前川）

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	エ：グループワーク
<input type="radio"/>	オ：プレゼンテーション
<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>メディア（インターネット、テレビ、新聞など）で取り上げられる、将来就く可能性のある仕事に関するニュースをチェックすること。並行してインターンシップ先を自ら選定するため、就活サイト、企業ホームページ、書籍などを見て、企業研究をすること。いずれも毎日1時間は時間をとること。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験あり この科目を担当する3名の教員はキャリア教育の専門家として、本学学生だけでなく、他大学も含めた多くの大学生の就職支援、キャリア教育に従事し、その経験を生かして、大学での学びや大学生活（課外活動など）での経験が、どのように社会で役に立つのかを事例を交えて解説を行う。</p>

備考